



初等部だより 5月号

鎌倉女子大学初等部

平成31年4月24日

第2号

自己有用感

部長 勝木 茂

陽射しも日ごとに明るくなり、岩瀬キャンパスの木々の葉も少しずつ緑が鮮やかになってきました。4月初めの始業式、入学式から約3週間が経ちました。

1年生も入学直後に比べると表情がずいぶん柔らかくなり、明るく元気になってきたように感じます。もちろん教師は「きめ細やかさ」「ていねいさ」を大切にされた指導を心がけています。でもそれだけで、1年生の表情が柔らかくなったわけではないと考えます。そこには6年生の「1年生のために役に立ちたい」という思いと行動があるからだと思えます。

入学式の前日の他学年下校後、6年生は1年生のために様々な準備をしてくれました。1年生の教室の後部掲示板の「桜の花びらの飾り付け」は、画用紙に印刷された花びらを、6年生が一枚一枚をていねいに切り取り一つずつ画鋲を使って取り付けしてくれたものです。くつ箱にも1年生が喜ぶようにとお花を付けてくれました。6年生は、1年生のためにどれも一つ一つていねいに準備をしていました。そして、準備をしているほとんどの6年生の顔は満足そうな笑顔でした。

人は、自分が周りの人の役に立っていると感じる時、自分は大切な人間だと思えるようになります。いわゆる自己有用感です。もちろん子どもたちの場合、自己有用感が認識できるように、教師や親が適切に言葉かけをしたり肯定的に評価したりすることは不可欠です。自己有用感が高まってくると、周りへ貢献しよう（役に立とう）という意識が高まり、感謝の気持ちも生まれてきます。また、これらの積み重ねにより自己肯定感も自然に高まっていきます。このことは本学が大切にしている「感謝と奉仕のこころ」に自ずとつながっていくものです。先ほどの笑顔は、6年生として頼りにされていることと、その信頼に応え認められていることへの満足感からくるものだろうと思います。

6年生は他にもいろいろなお世話を自主的にしてくれます。朝、1年生の教室に行くと、ランドセルから必要な物をいっしょに取り出

してくれたり、トイレに連れて行ってくれたりしている6年生の姿があります。初等部グラウンドで一緒に遊んでくれている姿、雨の日に丸玄関で一緒に傘をつぼめてくれている姿……、1年生も6年生のお兄さんやお姉さんが大好きです。1年生の表情が柔らかくなってきたのは、安心して初等部生活ができ、毎日が楽しいということの表れだと感じます。

4月22日（月）初等部生全員による「新1年生歓迎会」がありました。6年生を中心に1年生のために行われたものです。司会をしていた6年生に「この歓迎会、自分が1年生の時にやってもらったの覚えている？」と聞いてみました。「よく覚えている」との返事でした。「そうか、やってもらったことへの感謝の気持ちを5年後にお返ししているってことだね」そのような短い会話を交わしました。もちろん、他の学年の子どもたちも1年生が入学してきたことでよい影響が出始めています。一つ上の2年生は、生活科の時間に1年生に「学校あんない」をいたしました。このよい雰囲気これから大切に続けていきたいものです。



今年のゴールデンウィークは、初等部生にとっても、正に平成から令和にかけての10日間連続の休みとなります。まずは安全に過ごすことを第一に、そしてできるだけ有意義に過ごし、令和元年5月7日（火）みんなが元気に登校して来てほしいと願っています。